

2019年7月19日

中野区長 酒井直人 様

公益社団法人日本建築家協会
関東甲信越支部 中野地域会
代表 白江龍三

平和の森小学校の計画実施に関する要望書

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

区長におかれましては、かねてより建築・文化全般に深いご理解を示されていること、また、旧豊多摩監獄正門の保存に関し、並々ならぬ努力を払われたことに、弊会として深く敬意を表します。

さて、平和の森小学校の計画に関し、現地保存が決定した旧豊多摩監獄正門の取り扱いについて、様々な意見が取り交わされているように聞いております。弊会としては、貴区が門の保存をご決定いただいた以上、その貴重な文化的価値を活かすことこそが大切であると考えます。つきましては、平和の森小学校の基本設計・実施設計を発注するにあたり、次の3点を要望いたします。

1. 「新しく建設する学校と旧豊多摩監獄正門の文化的価値を融合させ、双方の価値の相乗効果を十分に考慮する」といった主旨を設計発注時の要項に明示していただきたい。
2. 設計者の選定は、多くの人に参加できる公開コンペまたは公開プロポーザルによって行っていただきたい。（本年2月28日提出の要望書にも理由と共に記載）
3. 当計画の実施に当たっては、早期から学校建築の専門家を監修者として迎え入れ、設計発注時の要項に上記の相乗効果が適切に示されているか、その意図が区から設計者に十分伝わったかどうか、その後の流れが意図に定めるものになっているか、その監修者の評価を得ながら進めていただきたい。

また、以上の3点とは別に、旧豊多摩監獄正門の文化的価値を広く人々に知って貰うために、中野区の文化財指定、さらに保存処置に対する補助対象となることも考慮して、都の文化財指定を可能な限り早く実現されるよう、強く要望いたします。

なお、公益社団法人としてできることがあれば、弊会は協力をさせて頂く所存ですので、ご高配をお願いする次第です。

謹白

追記：

昨2018年度に弊会から、平和の森小学校の配置計画の素案を6種、旧豊多摩監獄正門を現地にて活かす内容にて、お届けしたところです。

ここに もう1案、本状に添付しますので、ご参考にして頂けますと幸いです。

旧豊多摩監獄に収監された人々には政治犯も多く、それらの方々の中には戦後の文化人とみなされる人もいます。社会情勢の変化により、同じ人がある時は犯罪者になり、ある時は文化人になる。旧豊多摩監獄正門は長い歴史の変遷の中で、そのような現実を体現するシンボルになりました。

また同時に、関東大震災を耐え、地震国日本において先人が工夫した高度なレンガ造のシンボルにもなりました。また穏やかなデザインは、監獄と言う特殊な施設に対しても、他の公共施設と同等の文化性を付与しようとした配慮の証でもあります。

このように、旧豊多摩監獄の正門は、歴史の中で練り上げられた珠玉の文化財です。

しかしながら、旧豊多摩監獄には元刑務所という負のイメージを抱く人もあり、新しくできる学校はこれを乗り越える強い文化性と正当性を持つものでなくてはなりません。旧豊多摩監獄の正門と同じ場所に我々にとって最も大切な未来を託す子供たちの館をつくる以上、小学校と旧豊多摩監獄正門の文化的価値を融合させ、双方の価値の相乗効果を十分に発揮させることが必要です。

このような高度に文化的で、哲学的でもある課題を、空間的、造形的、技術的に解決することは、本来は建築家が最も得意とするところです。しかし現在の日本の設計者選定制度は、通常の方法ではそのようなことができる適切な建築家にたどり着くことはできません。

現在採り得る最も望ましい方法は、従来のような限定的な参加条件を少なくし、多くの人に参加できる公開性が高い形式のコンペ又はプロポーザルを開催することです。

審査に当たっては、専門家の技術的審査や教職員の方の運用審査を経過したものの中から、一般投票も採用して参考にしつつ、区長も加わる審査団（過半を建築専門家とする）が選定する形式が理想的と考えます。＜党派性が影響を及ぼす「議会審査」は政治的に過ぎるので行わない＞

中野区内では多様な公共建築の計画が進んでいると思いますが、そのいくつかについては本件のような高度な課題を抱える案件が発生すると思います。そのような案件に対して丁寧に対処することが、中野の文化を高め、豊かな中野を創ることにつながると思います。

ぜひ、平和の森小学校の計画を、その1ステップにしていだきたいと考えます。